

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ふくおーれ（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 3月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 3月 9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	臨床心理士・公認心理師の資格を持つ職員が、発達特性に応じた専門的個別療育を提供しています。	臨床心理士・公認心理師による個別の専門的アセスメントにより、利用児童の発達特性に応じたプログラムを作成しています。また、市販の玩具やゲームを用いてトレーニングを実施し、ご家庭で同様の取り組みを行えるようにしています。	職員それぞれの得意な領域があるため、知識や技術、工夫を共有しあい、それぞれの担当児童へ活用していきたいと考えています。
2	臨床心理士・公認心理師の資格を持つ職員が、発達特性に応じた専門的小集団療育を提供しています。	個別療育で身につけたスキルを集団内で活かせるように個別の目標を設定し集団療育を取り組んでいます。	同年齢、同じ発達特性、同じ趣味など、小集団のメンバーを工夫し、利用児童の更なる成長を促す取り組みに繋がっていきます。
3	臨床心理士・公認心理師による積極的な家族支援を提供しています。	利用児童のアセスメントやご家庭での関わり方など、ご家族のニーズに沿ったペアレントトレーニングに通じる心理面接を提供しています。	ペアレントトレーニングをより計画的なスケジュールで取り組めるように検討します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団療育の頻度が少なく、個別療育で身につけた適応行動の日常場面での汎化に繋がりにくい点が挙げられます。	個別療育が主の事業所であるため、保護者にも個別療育のニーズが強く、定員数の関係もことから小集団療育の頻繁な開催が難しいことが挙げられます。	利用児童が所属する園や学校との積極的な情報共有を図り、個別療育で身につけたスキル等を外部機関で表現できる仕組みを整えることが挙げられます。
2			
3			